

問1 1980年代末から1990年代初頭にかけての国際情勢の変化について、1989年にはユーラシア大陸北部の広大な領域を占めていた一つの国家が、1992年には複数の国境線で区切られた国々の集まりへと変化しました。この地図上の変化をもたらした歴史的事象として、最も適切なものはどれか。（2019年 三重公立入試 類似）

1. ソビエト連邦（ソ連）の解体 2. ベルリンの壁の崩壊 3. ドイツの再統一 4. 東欧革命の発生

問2 日本の生活文化の変遷を説明した資料において、1950年代半ばから1970年代前半にかけて、人々の生活を大きく変えた要因として最も適切な説明を一つ選びなさい。（2020年 和歌山公立入試 類似）

1. 高度経済成長によって、テレビや冷蔵庫などの家電製品が急速に普及した。 2. 文明開化の影響により、太陽暦が採用され一日の時間の使い方が変化した。 3. 大衆文化が発展し、初めてのラジオ放送が行われニュースが即座に伝わるようになった。 4. 戦時体制の強化により、物資の自由な売買が制限され配給制が一般的になった。

問3 1989年に地中海のマルタ島で行われた、アメリカとソ連の首脳による会談の内容として、歴史的に最も重要な説明はどれですか。（2023年 福井公立入試 類似）

1. 第二次世界大戦後から続いてきた冷戦の終結を正式に宣言した 2. 第二次世界大戦の戦後処理について、連合国の首脳が初めて協議した 3. 国際連合の設立を決定し、安全保障理事会の枠組みを構築した 4. ドイツの無条件降伏を求め、戦後のドイツ分割統治を合意した

問4 1992年に制定された国際平和協力法（PKO協法力）に基づき、自衛隊の部隊が国際平和維持活動（PKO）のために初めて派遣された国はどこですか。（2021年 和歌山公立入試 類似）

1. カンボジア 2. アフガニスタン 3. キューバ 4. ベトナム

問5 1989年に消費税が導入された後の平成の政治史において、1993年に起きた「55年体制の崩壊」と呼ばれる出来事の説明として最も適切なものはどれか。（2021年 京都公立入試 類似）

1. 衆議院議員選挙の結果、自由民主党が過半数を割り込み、細川護熙を首相とする非自民・非共産による連立政権が成立した。 2. 日本社会党が衆議院で単独過半数を獲得し、自由民主党から政権を奪って戦後初の社会党単独内閣を発足させた。 3. 参議院議員選挙で自由民主党が敗北したことをきっかけに、日本社会党が野党第一党の座を新進党に譲り、事実上解散した。 4. 1945年の終戦直後から続いていた自由民主党の単独政権が、2007年の郵政民営化の是非を問う選挙によって終了した。

問6 1980年代後半から1990年代初頭にかけての、地価や株価が異常に高騰した「バブル経済」と呼ばれる時期における日本の廃棄物の状況と、その背景について説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2018年 兵庫公立入試 類似）

1. 大量生産・大量消費の社会背景により、ごみの総排出量は急激に増加し、年間5000万トンを超える水準に達した。 2. 環境保護意識の高まりによってリサイクル運動が全国に普及したため、ごみの総排出量は1980年代を通じて減少傾向にあった。 3. 不況による消費の冷え込みから、ごみの排出量は1980年代後半から1990年代初頭にかけて横ばいの状態が続いた。 4. プラスチック製品の利用を制限する法律が施行されたことで、生活系ごみの排出量は1970年代に比べて大幅に抑制された。

問7 第二次世界大戦後から長らく続いた、アメリカを中心とする資本主義陣営とソ連を中心とする社会主義陣営による「冷戦」の終結が宣言された会談の名称として正しいものを選びなさい。（2024年 宮崎公立入試 類似）

1. ヤルタ会談 2. マルタ会談 3. ポツダム会談 4. サンフランシスコ平和会議

問8 日本の戦後経済に関する出来事のうち、1980年代後半のバブル経済期に見られた特徴的な状況として、最も適切なものはどれですか。（2024年 三重公立入試 類似）

1. 地価や株価が実体経済を超えて異常に高騰し、投資が過熱した。 2. 東海道新幹線の開通など、大規模な交通網の整備が進められた。 3. 深刻な環境問題への対応として、公害対策基本法が制定された。 4. テレビアニメの放送が始まり、新しい大衆文化が急速に普及した。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 ソビエト連邦（ソ連）の解体	第二次世界大戦後、アメリカ合衆国と並ぶ超大国として冷戦の一翼を担った社会主義国家が、1991年末に消滅した出来事を指します。この結果、広大な領土を統治していた中央政府がなくなり、ロシア連邦やウクライナ、中央アジアの諸国など、15の共和国がそれぞれ独立したことで地図上の国境線が大きく書き換えられました。
問2	答え 1 高度経済成長によって、テレビや冷蔵庫などの家電製品が急速に普及した。	1950年代半ばから1970年代初頭にかけての日本は高度経済成長期と呼ばれ、国民の所得が増加しました。この時期には「三種の神器」（白黒テレビ、洗濯機、冷蔵庫）や、その後の「3C」（カラーテレビ、クーラー、カー）といった家電製品が一般家庭に普及し、家事の負担軽減や娯楽の多様化など、生活様式に劇的な変化をもたらしました。
問3	答え 1 第二次世界大戦後から続いていた冷戦の終結を正式に宣言した	アメリカのブッシュ大統領とソ連のゴルバチョフ書記長が会談し、長きにわたった東西対立（冷戦）の終わりを世界に示しました。この会談は、1989年のベルリンの壁崩壊といった東欧の民主化の波を受けて行われた歴史的な転換点です。選択肢にある戦後処理やドイツ分割についてはヤルタ会談やポツダム会談の内容であり、混同しないよう注意が必要です。
問4	答え 1 カンボジア	1991年の湾岸戦争において、日本は多額の資金協力を行ったものの、人的な貢献が不十分であるとの批判を国際社会から受けました。これを受け、翌1992年に国際平和協力法（PKO協力法）が制定され、同年に内戦が終結したカンボジアの復興支援を目的として、自衛隊が初めて海外へ派遣されました。
問5	答え 1 衆議院議員選挙の結果、自由民主党が過半数を割り込み、細川護熙を首相とする非自民・非共産による連立政権が成立した。	1955年の自由民主党結成以来、同党が政権を維持し、日本社会党が最大野党として対抗する構図が続いていました。しかし、1993年の衆議院議員選挙で自由民主党が過半数を割り込み、細川護熙を首相とする8つの政党・会派による連立政権が誕生したことで、38年間に及ぶ自民党の一党優位体制が一度途絶えました。これを55年体制の崩壊と呼びます。
問6	答え 1 大量生産・大量消費の社会背景により、ごみの総排出量は急激に増加し、年間5000万トンを超える水準に達した。	バブル経済期は、空前の好景気を背景に人々の消費活動が極めて活発になった時期です。この「大量消費」のライフスタイルは、廃棄物の急激な増加を招きました。当時のごみ排出量の推移を見ると、1980年代後半から急激に右肩上がりの曲線を描き、5000万トンを超えてピークへと向かう様子が確認できます。この時期の社会問題は、後の循環型社会形成推進基本法の制定など、資源循環への意識転換のきっかけとなりました。
問7	答え 2 マルタ会談	1989年に地中海のマルタ島で、アメリカのブッシュ大統領とソ連のゴルバチョフ書記長が会談を行い、東西対立（冷戦）の終結を世界に向けて宣言しました。これにより、戦後の国際政治における大きな転換点となりました。
問8	答え 1 地価や株価が実体経済を超えて異常に高騰し、投資が過熱した。	1980年代後半のバブル経済の最大の特徴は、地価の高騰と株価の高騰です。選択肢にある「東海道新幹線の開通（1964年）」「公害対策基本法の制定（1967年）」「テレビアニメの放送開始（1963年～）」は、いずれも1950年代半ばから1970年代初頭にかけての「高度経済成長期」に起きた出来事であり、バブル経済期とは時期が異なります。入試ではこれらの時期の判別が頻繁に問われます。